

圏外のアンテナ

[ロボスーツ]の巻

「ロボスーツ装着、福島でくわ入れ。」福島民報のニュースサイトにこんな見出しが躍っていた。えっ！どうということ？最初ピンとこなかったわたしは、記事の全文を読んでようやく、何が起きたか合点がいった。

サイバーダインというベンチャー企業が、郡山にロボットの生産拠点を建設。起工式でよく見る、お歴々による「くわ入れ」が、同社のロボスーツHALを装着して行われたという。ちょっと楽しくなる話である。

ロボットと聞くと、普通はすぐにヒト型ロボットを思い浮かべてしまう。鉄腕アトム、スターウォーズのC-3PO、国際宇宙ステーションで初めて話した宇宙飛行士キロボ、今年ソフトバンクが売り出した、人間の感情を読み取り会話するペッパーのような…。

彼らはコミュニケーションロボットとも呼ばれ、認知症予防やセラピー効果への期待大。近い将来誰もが一人一ロボと暮らすようになるとさえ言われている。

だが、どうやら、ロボットはそんな癒しのお仕事以上のことも、こなせちゃえそうなのである。

新工場で作られる予定のロボスーツHALは、洋服のように着られるサイボーグ型ロボットだという。

脳から筋肉に伝わる微弱な電位信号を、身につけたロボスーツが感知。筋肉と一緒にモーターで関節を動かすという仕組みである。

これを建設業者が身につければ、腰に掛かる負荷が大きく軽減。いくつになっても、重い物でも、腰を痛めずに持ち上げられる。ハードな現場仕事が、高齢になっても可能になるらしい。

世界中で高齢化が進む21世紀。福島産のロボスーツHALが、老いた人類を果敢に救う。わたしたちは、夢見た「未来」が「現在」に、くるりと変わる瞬間を、目撃するに違いない。

=2015年6月2日掲載=



店頭で愛嬌を振りまいているペッパー、今日は箱に入ってお休み中